



同友しずおか

12

VOL.469

題字：遠藤 在氏 榛原支部



私の逸品
 地域連携が生んだ廃棄物コンテナ
(有)富士清掃センター
 (富士支部)
 詳細はWEBで!
 静岡同友会

第31回全県経営フォーラムin伊東

特集

「地域社会の主役として光輝く中小企業づくりを」

～人を生かす経営の実践で、地域の期待に高い水準で応えよう～

会員訪問記

杉山 拓也氏 大平造船工業(株)・伊東支部
速水 伸吾氏 (株)エスケートラスト・三島支部

その他
主な内容

第14期経営指針を創る会 一泊修了式、同友会大学、イントロセミナー、静岡大学連携講座、クリスマスバザー、新会員紹介、友達の輪、金融庁業務説明会

平成29年度
重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営を実践する同友会型企業を増やします。
- ② 中小企業振興基本条例運動を推進し、政策実現が行える組織づくり、地域づくりをめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

「地域社会の主役として光輝く 中小企業づくりを」

～人を生かす経営の実践で、地域の期待に高い水準で応えよう～

第31回全県経営フォーラムin伊東に219名集う

年に一度、全県で学び合う経営フォーラムが11月14日（火）、伊東支部の設営の下、伊東市観光会館他で開催されました。小野達也伊東市長様をはじめ、来賓や行政、大学や他県同友会からもご参加頂きました。本頁では全体会・記念講演の概要を、次頁からは各分科会の座長報告と参加会員の感想を紹介します。



杉山拓也実行委員長

伊東市で初めての開催となる全県経営フォーラムは、杉山拓也実行委員長長の「参加者が多くの学びを得て、地域社会の主役として光輝く企業づくりをしていくことを願います」と力強く挨拶で始まりました。続いて、

河合浩史代表理事から、ご参加いただいた来賓や関係機関各位、また参加者へ、感謝の意と共に「フォーラムでの気づきを、各支部に持ち帰り、委員会活動、小グループ活動などを通じて、さらに深めてほしい」と呼びかけました。

かつて会員でいらした小野市長がご祝辞の中で「伊東市も第三次産業に従事する人の比率が全国二位と圧倒的に高い中で、お客様の変化するニーズに対応していかなければなりません」と述べられた他、来賓各位から、同友会への期待の籠ったご祝辞を頂きました。

全体会に引き続いて稲本雅子氏（株）ハリスの湯 代表取締役）による記念講演、その後は5つの分科会に分かれ学びを深めました。参加者一同が学びを深め合い持ち寄った懇親会では、次年度設営の沼津支部の羽野佳明支部長が次年度への抱負を語り、来年のフォーラムへの期待のもと幕を閉じました。



河合浩史代表理事



来賓出席者

（順不同）

小野 達也様	伊東市長
影山 敦彦様	静岡県経済産業部商工業局 地域産業課長
石井 潔様	静岡大学学長
児玉 光載様	財務省東海財務局静岡財務事務所 所長
平井 敏雄様	三島信用金庫 理事長
杉本 正人様	伊東商工会議所 会頭
山本 義彦様	静岡大学名誉教授・同友会顧問

行政・関係機関出席者

（順不同）

青木 啓祐様	静岡財務事務所
勝治 裕視様	静岡財務事務所
尾藤 芳紀様	静岡財務事務所
武田 真和様	静岡財務事務所
若山 孝男様	(株)日本政策金融公庫静岡支店
長谷川美雪様	静岡県経済産業部商工業局地域産業課
石井 義仁様	伊東商工会議所
米山 充様	富士市産業経済部産業政策課
石井 俊勝様	富士市産業経済部産業政策課

人を生かし会社を成長させる禅の湯方式の経営の実践とは

講師：稲本 雅子氏（株）ハリスの湯（禅の湯）代表取締役



稲本 雅子氏

弊社は、父が住職を務める河津町のお寺の敷地内で「禅の湯」を経営しています。私は元々金融機関で働いていましたが、7年前に事業承継しました。

一般的に宿泊業は、建物や部屋など設備への投資を定期的に行います。禅の湯も同様に借入をして建物や部屋に投資し、事業を始めました。しかし高級旅館には見劣りし、利用者が増えません。とは言え設備に頼って売上を作ろうとすれば、設備投資と借入・返済の円環から抜けられなくなります。そこで私は、宿泊業が様々な仕事やモノ・コトと幅広く関連する点に着目しました。そして、これらの体験を通じて育ちあえる場づくりを目指し、「育てる・育ちあう」という意味で「育する」をコンセ

プトとしました。徐々にお客様が増えると、人手が必要になります。私は雇用においても「育する雇用」を目指しました。それは、社員の夢や生き方に向き合い、共に実現を目指す雇用形態です。3年目当りから軌道に乗り始め、社員が皆生き生きと働き、宿の安定稼働、売上増へと繋がっていきました。

会社と社員をGive & Takeの関係で考えたとき、私はGive 5つでTakeが1つ返ってくると思っています。給与や待遇以外に、どれだけ社員のことを考えているか、社員の夢の応援をしているかなど、様々なGiveが大切です。禅の湯ではスタッフそれぞれの夢を応援することで、様々な事業が生まれてきました。社員の長所や能力が生きる仕事を社内に見つけ、ときには創り出すことで、弊社は社員と共に育ちあっているのです。

徹底的に人創り！ 人を育むために社風、環境、組織改革

金指 忠男氏 (株)オートベル 代表取締役
共同求人委員長

事業内容：中古自動車流通業



報告者 金指 忠男氏

〔座長報告〕

金指氏の報告を聞いた時、社員と向き合い最後まで諦めないその姿勢強い意志、そして理念を基にした金指氏の一貫した企業づくりに衝撃を受けました。一人ひとりの社員の役割、それぞれの職

責で何を求められているのかが明確であり、それぞれの人間的成長に視点を当てた人づくりにまで落とし込まれています。

金指氏からは、大勢の社員を一つの方向に向けさせ、それぞれが自主的にウキウキワクワク働く組織づくりの実践を学びました。(株)オートベルのように150人の規模の会社でも、たった一人でも、社員を評価し処遇しなければなりません。彼らと共に成長し、この会社で働いてよかった、生きてよかったと感じる会社をつくるのが私たちの責任です。

今、私たち中小企業を取りまく新しい大きな問



題が「人材不足」です。日頃から人を大切にする経営を行い、人を大切にする企業風土をつくる。学生たちはそのような企業を求めています。社員たちが、「この会社で働いてよかった」と感じてくれば、自分の友人、更には自分の子どもにも自分の会社で働いてほしいと活動してくれます。障がい者も含め地域の若者が活躍できる場をつくれば、若者の流出を食い止めることに繋がります。

社員たちがイキイキワクワク働くことがお客様を呼び、新しい社員を呼び、社員が人財に変わっていきます。我々一人ひとりの小さな取り組みが、大きな流れになり、地域を変える力になっていきます。私たち経営者が覚悟を決めて一歩を踏み出すことから地域づくりが始まることを皆さんと共有して、第1分科会のまとめとさせていただきます。



座長 望月 宣典氏

(清水クレジット(株)・経営労働委員長)

参加者感想



「(株)オートベルは社員が商品です」。全国区の手前から中小零細企業まで、競争相手がひしめき合う中古車買取業界において、他社との差別化を図り業績を上げていくためには、お客様に安心感・納得感を伝える人材が不可欠であるという金指氏の考えを表した言葉で、今回の報告の冒頭に出てきました。

社長就任後、業績改善に向けて動き出すものの、自分の考え方に賛同してもらえず、社内でひとりアウェーの状態を体験。そんな状況にもめげず、経営理念や方針に対するベクトル合わせと仕組み

作り、個人の意識、会社風土、会社組織の改革等、社員と向き合い対話し続けることを実践してきた金指氏の熱い思いが伝わってくる報告でした。

社員がいて会社がある。社員の成長に目を向けていかないと会社も成長しないでしょう。どんな会社も経営者と社員がお互いを信頼し合い、協力し合うことによって、お客様により良い商品やサービスが提供できるものだと思います。

社員が輝き、生き生きと働ける会社を目指すためにいちばん必要なことは、自分自身の実行力であるということ、この分科会から学びました。

森下 昌治氏 (株)森下商店・静岡支部

今こそ変革の時! 目指せ、戦略経営!! ～自社分析で見えてきた会社の過去・現在・未来～

勝間田 賢一氏 (株)駿河調査設計 代表取締役
御殿場支部

事業内容：建設コンサルタント業



報告者 勝間田 賢一氏

〔座長報告〕

勝間田氏の報告は「現在儲かっているという会社もいつどうなるか分からない、だから今準備をしておくことが大切だ」というものでした。彼の父親が60歳でスッと引退し、息子に経営のバト

ンを渡した時、私はよくそこまで息子を信じる事が出来たなと思いました。バトンを受け取った彼は経営を立て直すために自社の強みを模索し続けます。そして、ドローンを経営の武器にして見事黒字化を実現しました。しかしドローンも、5年後10年後はどうなっているか分かりません。ですから彼は将来、ICTを建設現場に導入する「I-construction」などの新技術を取り入れることも考えています。彼は、自分が不完全であり、自分の会社が不完全であると認識しているので、これから何があっても乗り越えられるでしょう。現状に満足せず常に不完全を認識していれば人間の



にも成長しますし、一歩先・二歩先の会社経営も見えてくるはずですよ。私はこの報告を聞いて、今のままではダメだ、先を見据えなければならないと感じました。よく「創業者はすごい、2代目はダメだ」と言われますが、結局自分が不完全であることを認めて常に成長していく人間かそうでないかの違いであり、創業者も二代目も関係ないと思います。

彼が60歳になった時に、彼の父親のように経営のバトンを渡すことができるかどうか、しっかりと見守り、同時に私も後継者に信頼のもとバトンを渡せるような人になりたいと思います。また副支部長として同友会の中でも、今後勝間田氏の後に続くような後輩を育て、同友会のバトンを次の世代に渡していきたいと思っています。



座長 田山 直喜氏
(サン・ベネフィット(株)・御殿場支部)

参加者感想



社内の意見を丁寧に集めることで成功したドローンの導入

2代目として測量会社を赤字状態から引き継いだ勝間田氏。黒字化を達成後、新しい測量方法としてドローンを導入した経緯について報告しました。

測量技術の延長として、ドローンによる測量は容易に想像がつくように感じていましたが、実際の導入に際し勝間田氏は、社員一人ひとりにドローンによる測量についての意見を聞きます。その中で、先代も似たようなチャレンジを試みたことを社員から聞き、「今度こそ失敗しないように

頑張りましょう」と励まされました。業務の延長線上にある新技術に対して、社長は社員の意見を丁寧に聞かずに当然のように導入することが多々あると思いますが、勝間田氏のように社員の意見を聞くことで、新しい技術がスムーズに社内に浸透するのではないかと感じました。バズセッションでは「(20年後の) 未来に向けて、何かをしていますか?」をテーマに、激動する業界の環境に対して、永続する企業となるために自社ではどのようなチャレンジをしているかを語り合いました。

村松 繁氏 (保険アイマーク(株)・志太支部)

エネルギーシフトと 地域・企業連携の実践

～持続可能な社会は中小企業家が主役に～

大橋 徳久氏 (有)大橋商事 代表取締役

中遠支部

事業内容：廃棄物処理・リサイクル業



報告者 大橋 徳久氏

〔座長報告〕

グループ討論の時に各グループを回らせていただきました。エネルギーシフトと社内環境を結び付けて自社の取り組みを話しているグループや「エネルギーシフトは目的ではなく手段」「どの

切り口で同友会活動を進めても、エネルギーシフトに繋がるのでは」という話も出ていました。エネルギーシフトという考え方が業態に左右されない、どの会社でも取り組める考え方であることが共有されたのではと思います。

報告者の話の中で「環境経営」という言葉が出てきました。自社の経営方針を「環境方針」とリンクさせてみたり、経営計画に「エネルギー計画」を落とし込んでみるなら、エネルギーシフトは行き着くところ自社の経営指針書、そして経営理念、さらには私たちが目指すべき理想の姿に結びつくかもしれません。

私はエネルギーシフトという考え方は、地域や顧客を含めた社会貢献。企業戦略としての企業活動そのものと理解しました。次の世代への経営者としての責任と言い換えることが出来るかもしれません。この分科会での学びを過去、現在そして未来を見つめ直す機会として頂ければと思います。

エネルギーシフトを一つの考え方、または切り口としてとらえるならば、新たなアイデアやサービスが生まれる一因になるかもしれません。同友会の提唱するエネルギーシフトは、経営者の生き方や考え方に深く影響しうるものです。明日からの企業経営に生かし、良い会社、良い経営者、そして良い経営環境を目指していきたいと思います。



座長 遠藤 健正氏
(有)大橋商事・中遠支部

参加者感想



大橋氏の話聞き、まず廃棄物から電力を生み出すことが出来ることに驚きました。また、参加前はエネルギーシフトがこんなに身近にあるものだと感じていませんでした。バズセッションは「エネルギーシフトは何の為にやるか？何が問題なのか？」という内容を中心に議論を進めました。例えば、太陽光での節電、エアコンの温度調整、配車の効率化で省エネなど、自社で身近に出来ることが沢山出てきました。その削減出来たエネルギーで浮いた分を福利厚生や

ボーナスといった形で社員に還元する。それにより社員のやる気UPにも繋がり、またエネルギーシフトしようと良いサイクルが出来る。これが同友会3つの目的の中にある「強じんな経営体質をつくる」ということに繋がると感じました。また身近な所でゴミの分別など相手を意識したエネルギーシフトをすることで「中小企業をとりまく社会・経済・政治的な環境を改善し」ここに繋がるなど感じました。全体を通じて、エネルギーシフトが身近な存在であること、そして会社づくりにおいて重要なことであると感じました。

望月 康平氏 (株)力ネキュウ・静岡支部

主体者としての関わりこそが地域を支える

～子供の故郷を残したい～

坪内 知佳氏 (株)GHIBLI 代表取締役
東京同友会

事業内容：水産業（水産の6次産業化）



報告者 坪内 知佳氏

〔座長報告〕

坪内氏がなぜ萩で水産漁業の創業者として地域を巻き込んだ活動をしてきたか。それは、子どもの故郷を残したいという、純粹にして確固たる思いがあったからです。この想いを元に、萩の地で主体者となり、その地域を

変える活動をしていきました。周りから反対される行動もあった中で、なぜ頑張れたか。それは、想いの強さに加え、主体者となりえた点にあるのだと思います。

主体者として地域で頑張ることは外部との関わり合いに繋がります。やがて自分の立ち位置を知ることにつながります。地域で活動するために外部のことを知らなければならない、ということに気づき、連携していく。この環が広がることによって、「地域＝日本」と言えるような経営者が生まれ、ひいては日本が楽しくなるのではないのでしょうか。

自分にとっての「地域」を大きく捉えられるようにするためには、ひとつ上の階層、ひとつ大き

な枠組みに立ってみる必要があります。地元を知りたいならば県に、県のことを考えたいならば、全国に行くことで、初めて自分の立ち位置が分かります。また、自社が自分の住んでいる商圈や生活圏で仕事をするのであれば、そこ以外の人と関わることによって、自社の立ち位置や外部環境が分かります。絶え間なく変化し続ける外部環境の中で我々中小企業が生き続けるためには、どんな状況かを知る必要があります。

経営環境の改善は、自社、中小企業家が主体者となって活動することによってのみ変えられます。主体者となっている経営者が圧倒的に多くなれば、その地域は発展します。本分科会での学びの通り、皆さんが今置かれている立場や外部環境を見つめて自社に戻り、地道に活動することが、地域の発展に繋がることと思います。その活動を通じて日本全体が良くなることを祈念し、この分科会のまとめとします。



座長 齋 威頼氏
(有)アサギリ・富士宮支部

参加者感想

変革の意志と巻き込み方



3つの漁船団からなる萩大島船団丸をまとめる坪内氏の報告には、多くの気づきがありました。変革の道に手をこまねく船団たちに本気で正面からぶつかり、跳ね返されそうになっても坪内氏は諦めませんでした。最初は相互の不理解から始まり、最後は承認し合う。このプロセスは組織運営する我々も取り入れることが必須であると感じました。バズセッションでは、自社と地域の発展についてどう巻き込んでいけばそれぞれが満足できるような

運営ができるか、について話し合いました。そこでは、今この地域があることの経緯・歴史に敬意を払うことや、認め合いを尊重することなど、前向きな意見が飛び交いました。

講演後、萩大島船団丸に携わるきっかけをお聞きしたところ「書類の作成をたまたま頼まれたんです」と、ひよんなきっかけが萩大島船団丸の変革の道を共にすることになったそうです。坪内氏の今後の活動報告を聞く機会を楽しみにしております。

増田 隼人氏 (コミュニティキュレーション・三島支部)

第5分科会【見学】

地域の中小企業を支える道の駅

～第6セクター方式での集客システム～

守谷 匡司氏 (株)祇園 代表取締役 伊東支部
マリンタウンテナント会前会長

事業内容：弁当・駅弁の製造販売

〔座長報告〕

地方再生が叫ばれる中で、以前の団体旅行で賑わいを見せていた観光地も、小グループや家族旅行が主流の時代に入り久しくなりました。全国に点在する道の駅。守谷氏は伊東の地で第3セクター方式による運営の問題解決への取組み、施設のバリアフリーやスロープの設置、世代に応じたおもてなしなど、中小企業が一体となって観光客の皆様喜んで頂けるような情報提供への取組みを行ってきました。お客様の心に「楽しかった」と沁み込んでいくような一つひとつの心配りなどを目指すのは、「お客様と関わるこの一瞬が、あなたの印象が伊東・伊豆の印象になるのですよ」というフレーズに集約されていると感じました。これからの課題であり、最も大切なことは、心の一等地に名前を刻んでもらうこと、と報告にもありました。



報告者 守谷 匡司氏



どのような経営環境の中でも耐えられる強靱な経営体質への強化、謙虚な経営姿勢から生み出される多くのアイデア、そして取引先企業などの仲間と共に継続的に事業の発展に努力していく姿勢を学ばせて頂きました。一人の経営者の元気が社員と共に一つの会社の元気となり、地域・地方の元気となり、日本の元気に繋がります。守谷氏は、社長になって最初に行ったこととして、自身の目指すものを経営理念の中に強く示唆されていました。しかし、何かを思い考えるところまでは誰でも行います。守谷氏のように、想いや考えを実現するため、まずは最初の一步を目指していきましょう。



座長 藤井 正春氏
(藤井労働管理事務所・伊東支部)

参加者感想



創業55年目となる(株)祇園。三代目、四代目と実質経営者無き運営が続き、守谷氏は2010年に五代目の代表取締役に就任しました。駅の降客もピーク時の3分の1以下となり、駅弁屋も減少するも「卸はやりたくない」「この伊東でしか購入できないお弁当を」という思いの中、赤字経営から黒字転換しました。

また全国では苦戦の多い第三セクターの中でも、伊東マリンタウンの前会長である守谷氏は、販売促進の決済はテナント会が主導し、「楽しさ(fun)・無料(free)・ファン(fan)」の3Fを掲

げ追及。関東周辺に打った集客のための戦略もみごとに成功をおさめました。

大切なのは立地ではないこと、お客様はNo. 1しか覚えていないため、お客様の心を掴み、思い出してもらえよう施設運営をしていくと明言されました。地域の中小企業を支え、雇用にも貢献する伊東マリンタウンが、今後どのような変化を遂げていくのか楽しみです。

討論の中で感じたことは、顧客の気持ちをつかむ為には、まず経営者が社員の気持ちをつかみ、良い環境で仕事をしてもらうことで、より良いサービスができるのではないかと思います。

伊藤 洋子氏 (株)シーエーティー・富士宮支部)

経営指針の成文化と発表、そして実践への決意

～第14期経営指針を創る会 一泊修了式～

静岡ホテル時之栖 11月25日(土)～26日(日)

開講から14期目を数える経営指針を創る会は、今期最終講の一泊修了式を開催しました。修了式では第14期生の会員19名が、6月から全8講に亘って成文化した経営指針書を同期生、創る会スタッフの前で発表しました。第1講から経営者としての自分を見つめ直し、真摯に議論を重ねてきました。共に本音で語りあう過程で、互いに思いやり、励ましあい、切磋琢磨しあえる仲間という財産が、今年も創る会に生まれました。その第14期生を代表して、2名の方から感想と決意が届きましたので紹介します。

清々しい気持ちで世界が明るくなった日

弊社は、創業45年を迎える瓦工事店です。伝統技術を生業とする弊社ですが、災害時の誤った報道等により「瓦＝重く危険」のイメージが根強く、年々経営が苦しくなっているのが現状です。この危機をどうにかしなければと思い、今期の創る会に参加させていただきました。私自身、コミュニケーションが苦手で経営も上手くいかないため、全てにおいて自信がなく、会に参加すれば経営を学べるという浅い考えでした。いざ受講が始まると課題の多さに驚きました。同時に、こんな課題が何のためになるのだろうと思いました。しかし、受講する度に自社の内部環境・外部環境の把握、お客様とは誰を対象にしているのかを何度も見つめ直すことができました。そして回を重ねるごとにだんだんと経営方針が見



えてきました。ですが、大元である「誰のために何のために働くのか」という疑問にずっと悩み続けました。その軸がしっかりしないため、指摘される度に答えられずにいました。最終の一泊研修の夜、もう一度自分を見つめ直し「社長の決意」を固めることができ、皆さんの前で指針書を発表した時、清々しい気持ちになり世界が明るくなった瞬間は忘れることができません。弊社にとって私にとって家族にとって、そしてこれから雇う社員にとっても、一步踏み出せる指針書ができたことに感謝します。

長澤 宗範氏（長澤瓦商店・静岡支部）

未来を見据えた経営の実践を決意

同友会の基本となる「労使見解」から学び、自社事業の在り方・自社の強みや特色、なぜお客様はあなたのところに頼むのか、など深く掘り下げました。受講生とスタッフ・事務局の皆様と本音の議論を重ねるうちに、自社の強みを客観的にとらえること、日々業務に取り組んでいた社員さんの思い、経営者としての覚悟といったことに気づかされました。自分自身の思いの奥にある、会社にとって何が大切なのか、将来に向かって何が必要なのかを真剣に考える時間をいただきました。



なりません。経営理念に基づいた会社経営、10年ビジョンを見据えた経営方針の実践、その想いを共有する時間と施策。皆がワクワクするような未来予想図を描ける会社をつくっていきます。

最後に、14期生同期、先輩スタッフ、事務局の方々に出会えたことに感謝しています。この感謝の想いを次に繋げるのがこれからの私たちの使命です。来年以降スタッフとして創る会に参加し、次の世代の方と共に学び、成長していきたいです。

山下 佳敦氏（南山下オート商会・榛原支部）

第15期 同友会大学

現代の経営者に求められる様々な素質を相互に高め合うことを目的に、経営者の人間力、幅広い知識や見識の醸成、物事の本質を捉える講座です。残り3講、各講座のスポット参加も可能ですので、ぜひご参加ください！

第二講

材質を見るCT

～フォトンカウンティングの力～

フォトンカウンティングとは光の光子1つ1つの電化の検出カウント技術で、可視光では極微細な光の計測や撮像に使われています。今回の講義で紹介された「X線CT」は、X線を用い、被写体を通じたX線の光子数とエネルギーを判別検出する、というものでした。

従来のX線CT方式はほぼ影絵映像だけでしたが、フォトンカウンティングX線CTでは「低線量」＝弱いX線＝低被ばくであり、それでいて低ノイズな「物体内部の断層映像」や「物質の弁別」が可能であるとのこと。それにより癌の早期発見（誤診断が少ない）、材料識別、危険物質（爆薬）発見、多彩な材質・サイズの被写体の非破壊検査への活用が期待できる、ということでした。

活用、実用化方法が主題テーマのバズセッション



青木 徹氏

11月11日(土) 静岡同友会 事務局

講師：青木 徹氏（静岡大学情報学部教授／学長補佐）

ンでは、技術内容や原理の理解が不十分で、論点がつかめず難航しました。しかしながら、教授や研究者との知識や理解度に大きな差がある中で、新しい発見や技術に将来性を見出し、ビジネスプロセスを創造する難しさを擬似体感できたことは、講義内容と共に収穫でした。

さて「ビジネス史上最も愚かな決定」と言われている話があります。1879年、グラハム・ベルが電話の特許を10万ドルで、全米一で地球規模の電信網を持つ「ウエスタンユニオン社」に売ろうとしましたが、同社は電話（当時性能も悪かった）の将来性を予測できず、あっさり拒絶。33年後にベルが創業したAT&T社に買収された、というものです。新技術の将来性を見抜くこととビジネスプロセスの創造の難しさという点で、私はこの話をふと思い出しました。

市野 征則氏（株丸二商会・静岡支部）

同友会イントロセミナー

会員経営者が語る

「イントロセミナー ～同友会と私」

毎月第4金曜日 同友会会議室にて



10月から毎月第4金曜日に、会員経営者が語る「イントロセミナー～同友会と私」を

開催しています。10月に行われた第1回では3名、第2回では1名のオブザーバが参加。うち1名がその場で入会を決めていただきました。「同友会ってどんなところ？」「何が学べるの？」「他の団体との違いは？」そんな疑問を解決する場となっています。是非、オブザーバの方や新入会員さんと一緒にご参加ください！

同友会イントロセミナー IN 三島

11月27日(月) 三島商工会議所 参加20名

今回はイントロセミナーとして、高木基稟副代表理事（バリュー・トーカイ(株)）から、「同友会とは」と題し、同友会理念や中小企業振興基本条例、地域金融機関との連携等、現在の取り組みや経営指針（経営理念・経営方針・経営計画）を持つことの重要性についてのお話がありました。その後、土屋亮氏（株スギナシステム）による決算書の正しい見方についてのセミナーが行われました。当日は3名のオブザーバが参加。同友会が目指す企業づくりや地域づくりに触れると共に、健全な経営に向けて参加者にとっても大変有意義な時間になったと感じました。



土屋 恵理子氏（株スギナシステム・三島支部）

静岡大学連携講座



第5講 11月1日(水) 「人を幸せにする機械づくりで地域に貢献」 河合 浩史氏 板橋工機(株) 沼津支部

省力化機械の設計から製作・改造まで手掛ける河合氏が、事業の紹介と自社が本当に社会から求められる会社か自問した経験を、同友会が目指す企業づくりに触れながら話しました。経営者の役割をはじめ、中小企業だからこそできる経営者と社員の関係づくり、働き方・生き方があることを伝えました。最後には自身の人生のテーマを学生に伝え、生き方を考えることの大切さを投げかけました。

第6講 11月8日(水) 「社会で役立つ人材になるために」 陰山 明典氏 静岡醤油(資) 静岡支部

製法・原材料にこだわり、高品質の醤油を醸造している陰山氏。醤油業界が厳しい状況に直面する中、生き残るための戦略を考えます。その経験から考えた社会で役立つ人材について話しました。仕事では結果が求められます。出来ることからコツコツとやっていくこと、また継続することの大切さなど、社会で必要となる姿勢について伝えました。



第7講 11月15日(水) 「ハタラク=社会的価値」 吉村 峰仙氏 吉村峰仙公認会計士・税理士事務所 静岡支部

企業が提供する価値で重要なものは「経済的価値」か「社会的価値」かを学生に問いかけた吉村氏。二社の社会人経験を経て、自分の資格を生かして中小企業の経営をサポートすることで社会に貢献したいと話し、「『ハタラク』=傍(ハタ)の人を楽(ラク)にすることが出来る」と自身の哲学を学生に伝えました。

第8講 11月22日(水) 「コンクリートブロックの可能性を追求して」 井上 斉氏 ワシロック工業(株) 静岡支部

自社事業について、震災を経てコンクリートブロックに対する風評被害が広がり業界が衰退していく中、経営指針を作成し、会社を維持発展させてきた井上氏。一級の技術者が造れば震災でも倒壊しない建築物になると話しました。最後に本当に大切な「豊かさ」とは物的なものではなく心の豊かさではないかと学生に伝えました。



第9講 11月29日(水) 「『未来農業!今、私が目指すもの』～農とともに、この先へ!～」 宮園 義実氏 (有)アグリ開発 榛原支部

コンサル時代を経て農業分野に興味を持ち起業、水を効率よく植物に行き渡らせる点滴チューブの販売等を事業として行ってきた宮園氏。今後は環境問題・人手不足問題も視野に入れ、農作業サポート事業やエネルギーを効率的に活用する「エクセルギー」を農業にも取り入れるなど、総合的に未来の農業をサポートしたいと語りました。

クリスマスバザー



12月2日(土)に青葉シンボルロードにて、静岡市ボランティア団体連絡協議会主催の「第18回いのちポカポカ街かどクリスマス2017」が開催されました。バザーには、会員企業約20社から商材を提供して頂き、県障がい者問題委員会で出店をしました。今年で参加は15回目となり、毎年バザーの売上金の寄付を通して社会福祉への貢献を行っています。

当日は委員の方が販売を行い、お客様との交流を通して心あたたまるバザーとなりました。また多くの方にご来場いただき、大盛況のうちに幕を閉じました。

今回も多くの皆様のご協力頂きましたことを、この場をお借りし感謝申し上げます。ありがとうございました。



造船だけじゃないですよ！

大平造船工業(株)

取締役 杉山 拓也氏 (伊東支部)

事業内容：防水工事 FRP工事 船舶修理
塗装工事 シール工事

設立：1948年3月

社員数：5名

入会年月：2012年2月

所在地：伊東市静海町6-16

TEL：0557-37-3220

時代の移り代わりによる事業展開

創業は江戸時代頃の杉山造船が始まりです。その後
にすぐ隣にあった太平造船と合併し、現在の太平造船
工業(株)となりました。40年程前に転機が訪れます。木
造船からFRP造船に移り変わり、船の耐久性が上昇。
漁師の減少による漁船の減少なども伴って、仕事が激
減しました。造船業だけでは厳しい状況の中で、FRP
造船で培った技術を基に住宅の防水工事などを手掛け
るようになりました。

同友会は考える機会を与えてくれる

事業継承を見据えて、時代の移り変わりで他社、異

業種との交流の必要性
を感じ、杉山氏が入会
しました。入会後は防
水事業のほか塗装業も
手掛けるようになり、
同友会を通じて様々な
情報を得、新たな事
業展開を考えるよう
になりました。同友会について、杉山氏は「考える機
会を与えてくれる場。自社経営について話すことで、
やる気がでる。」と言います。



杉山 拓也氏

笑顔で遊び心のある職場を目指して

最近では公共事業の受注もはじめました。一般のお
客様に対しては、防水工事、塗装工事に加え、シーリ
ング工事をはじめることによって防水、塗装、シーリン
グを一括で請け負うようになり、今後の事業の基盤がで
きはじめたと言います。今後は「笑顔で遊び心のある職
場を目指していきたい」と話してくれました。

取材・記事 鈴木 将大氏 (有東亜電気工業・伊東支部)

悔しさをバネに、誇りを胸に、仲間とともに。

(株)エスケートラスト

代表取締役 速水 伸吾氏 (三島支部)

事業内容：揚重業、内装業、修繕業 (住宅・マンシ
ョン等の新築物件による材料の荷揚げ及び内
装工事一式、工場、倉庫等の企業向け修
繕・営繕事業)

創業：2007年1月

設立：2009年7月

社員数：正社員9名、パート4名

入会年月：2016年7月

所在地：本社 沼津市大岡2731-8

静岡営業所、横浜営業所

TEL：055-941-7952

URL：http://www.sktrust-niage-skjob.com/company.html

創業から今日

建物全般の建築資材の搬入搬出・荷揚げや、内装・
営繕・施行を行う(株)エスケートラスト。沼津市大岡の
本社の他、静岡市駿河区中島、横浜市神奈川区に営業
拠点を構えています。その代表取締役である速水伸吾
氏は、いまから約10年前、フリーター仲間と荷揚げの
仕事をしていました。そんな中、自分たちの会社を創
ろうと盛り上がり、社長はお前しかいないとの仲間の
言葉に一念発起。2007年に代表として個人事業で創業、
その2年半後に法人化しました。創業時のメンバーは
今も各営業所の所長として会社を支えてくれています。
社員同士の仲は良いが、慣れ合わず、お互いに切磋琢
磨していく社風が、同社の良いところだ。

経営者の思い

速水氏は、社員には家族のように思いやりを持ち、

厳しくも優しく接
してきました。期
待に反したことを
されたとしても、
決してこちらから
見捨てることはし
ないよう、努力し
てきました。それ



速水 伸吾氏 (右)

は、速水氏が若い頃、現場で悔しい思いを何度もした
ことの裏返し、とのこと。その当時を振り返り「今思
えば、自分たちが未熟だったのだと思います」とも語
ります。今の氏の原動力は、そのときの悔しさ。一職
人としての誇りを持ち、素晴らしい仕事を収めること
で、信頼を得る。また、職人として、生涯をささげる
ことのできる業種だという思いを持っています。だから
こそ、会社を成長させ、社員が誇りをもって仕事で
きる環境を整えていきたい、と氏は語ります。

同友会との関わり

2016年7月、三島支部長である三田宏一氏 (有エム
ケイテクノ) の紹介で同友会に入会。会について速水
氏は「利害関係を越えたところで本気の学びあいを目
指す貴重な存在だと思う。レベルの高い経営者が集
まっている印象。この場で、自らの成長を促したい」
と語ってくれました。着実に自社を成長させてきた気
鋭の若手経営者。今後の活躍が楽しみです。

取材・記事 古川 一郎氏 (株一電工・三島支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1088名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
吉岡真一 (よしおか しんいち)	(有)ヨシオカ 金属リサイクル業、不動産賃貸業(電線スクラップからナゲットというプラント機械で銅を取り出し、電線メーカー・銅パイプメーカーに売却)	富士	小川友代
齊能武史 (さいのう たけし)	(有)齊能不動産 不動産業 (不動産の売買、仲介、賃貸借及び管理、不動産のコンサルティング業務、住宅リフォーム業)	静岡	三木清夫
松井紀美代 (まつい きみよ)	丸松青果(株) 青果仲卸業 (野菜・果実の販売)	静岡	山田勝幸
宮本 巧 (みやもと たか)	In Spire(株) アンティークステーションナリーの製造販売 (㈱東京アンティークの代理店)	静岡	浅原 聡子
田辺 健太 (たなべ けんた)	Global Lights 経営コンサルティング (中小企業の社長の社外No.2としてお力になれるようなパートナー型のコンサルティング)	榛原	鈴木 徹
戸塚 佳明 (とつか よしあき)	南遠環境保全(株) 一般廃棄物収集運搬業 (一般廃棄物収集運搬、浄化槽保守点検、産業廃棄物汚泥収集運搬、下水道・農集排維持管理)	中遠	大橋 徳久

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

友達の輪 第44回



望月 淳平氏

この度、静岡支部の山本健二さん(有)日本スエーデン・静岡支部)よりバトンを受けました、(株)望月土木の望月淳平です。弊社は私の祖父が創業し、私で3代目となる公共工事を主体とした建設会社です。私が家業を継ぐ事を決め、入社してから2年目の頃、自分が本当に家業を継ぐ事が出来るのか、という大きな不安を感じ、第13期経営指針を創る会に参加することを決めました。私は創る会で会社と本気で向き合うことで、会社に対する自分の想いを見つける事が出来ました。

山本さんとは、第13期創る会の同期です。私が自社に対する想いを参加者の前で話をしたとき、私はまだ自分の中で答えがでておらず、上手く話すことが出来ませんでした。そんな時、山本さんに「その気持ちすごくわかるよ」と声を掛けていただき、上手く伝える事が出来なかった私に対しての共感と、アドバイスをして下さいました。その後も私が思い悩んだ時、いつも励ましの言葉を掛けて頂きました。創る会を卒業するまで支えて頂いた方々や、今までの人生をふり返り、「感謝」という思いを決して忘れず、良い会社をつくるために、今後も励んで行きます。また、たくさんの仲間と出会い、共に学び、成長することが出来るこの同友会という場を、今後も大切にしていきたいと思っています。

今回は、13期経営指針を創る会で大変お世話になった、柴田和哉さん(ヤマサン・志太支部)です。宜しくお願いします。
望月 淳平氏 (株)望月土木・静岡支部)

金融庁業務説明会

11月7日(火)、金融庁業務説明会が静岡地方合同庁舎にて開催され、静岡同友会から10名の会員が参加しました。金融庁の池田唯一総務企画局長からは、最新の地域金融施策について紹介。地域金融機関が地域密着型金融をビジネスモデルとして確立することで、顧客企業の維持発展や地域経済の活性化に寄与し、これによって収益力・財務の健全性の向上を目指すという方向性を示唆。また、事業性評価に基づく融資の促進については、経営陣が戦略・施策や管理体制の構築や社内への浸透などに組織的・継続的に取り組むことの必要性が確認されました。

続いて関東経済産業局の五十嵐悟氏からは、中小企業・小規模事業者支援施策について紹介。そのうち中小企業への事業承継支援の話では、今後10年の間に70歳を超える中小企業・小規模事業者の経営者が約245万人となり、そのうち約半数が後継者未定ということ、現状を放置すると2025年頃までに約650万人の雇用、約22兆円のGDPが失われる可能性がある、という待たなしの状況が報告されました。

静岡同友会
Facebookページ



静岡同友会 Facebook ページで、会員企業訪問の様子や各支部例会の案内を掲載しています。ぜひご覧ください!

同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。